

## ご挨拶

第 15 回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会 大会長

神戸女子大学看護学部 教授

玉木敦子

このたび、第 15 回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会を 2018 年 10 月 27 日（土）と 28 日（日）の両日、神戸女子大学ポートアイランドキャンパス（兵庫県神戸市）で開催することになりました。このような貴重な機会と関係の皆様のご支援を頂きましたことを心より感謝申し上げます。

さて、妊産婦を取り巻く環境は、少子化、出産の高年齢化、コミュニティーの結びつきの希薄化など近年急激に変化しており、母親の孤立や子育て不安の増大は大きな問題となっています。このような中で、現代に生きる妊産婦のメンタルヘルスを健康に維持するために、妊産婦に寄り添い、支えることが強く求められているのではないのでしょうか。そこで、今回の学術集会のテーマを『**いま、あらためて「寄り添う」を考える**』としました。「寄り添う」とは「そばに（ぴったり）寄って、離れずにいること」を意味します。つまり、前から引っ張るのではなく、後ろから押すのでもなく、侵入するのではなく、離れるのでもない。ぴったり添い、それを継続するということです。人の心は一人一人違うし、気持ちは変化し続けることも考え合わせると、それは実はとても難しいものです。本学術集会を通して、妊産婦やその家族の体験、思い、ニーズとは実際どんなものなのか、また「寄り添う」ケアやアプローチとは何なのかについて、多様な視点・立場からあらためて考えてみたいと思います。さらに妊産婦のメンタルヘルスの維持・向上のために、それぞれの職種や周囲の人は何をどのようにすれば良いのか、妊産婦の思いに「寄り添って」議論できる機会となれば、この上ない喜びです。

会場となる神戸には、港や六甲山の自然、夜景、スイーツやグルメ、JAZZ など様々な魅力が溢れています。会員の皆様による実践活動報告や研究成果発表とともに、多くの方々の学術集会へのご参加を、心よりお待ちしております。